

学びの風便り

リーディングスクール通信 53 R7.10.31

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 筑摩野中学校・波田小学校

筑摩野中学校 生徒の声から見てくる“良い授業とは”

筑摩野中学校は、2年前より「協働の学び～対話を基盤とした授業づくり～」をテーマに、4人グループを基本とした授業づくりに取り組んでいます。一学期の後半に、生徒を対象に「良い授業とはどんな授業だと思いますか？」というアンケートを実施しました。生徒一人ひとりの回答には、授業への思いや願いがあふれていました。その中から多く寄せられた意見が右の表です。これらの意見からは、生徒たちが「わかる」「考える」「つながる」授業を求めていることが伝わってきます。7月21日には全職員で第3回ラーニンググループ(LG)研究会を開き、「生徒の考える良い授業とは何か」を共有しました。研究主任の新村先生の授業実践をもとに、「広がる」「深まる」「高める」学びをどう実現するかを話題とし、先生方は自らの授業をふり返りながら活発に意見を交わしました。4人グループを基本とした授業づくりを重ねる中で、職員も生徒も「協働の学びの良さ」を実感しています。

「良い授業とはどんな授業だと思いますか？」

- 全員が集中して取り組める授業
- 集中できて「なるほど」とわかる授業
- わからないことはすぐ聞ける授業
- 静かにやる場面と友達と考えを出し合う場面のメリハリがある授業
- お互いに意見を出し合って理解を深められる授業
- 友達と意見を言い合いながら見方を変えたり、新しいことに気づいたりする授業
- 深く考えて誰もが学びを楽しめる授業
- 成長したと感じられる授業

協働の学び ～ 対話を通して学びを深める ～

10月21日の3年生の理科の授業では、「なぜ継続的に太陽黒点を観測しているのだろうか？」という学習問題のもと、太陽の活動と私たちの生活との関わりについて考える学習が行われました。生徒たちは前時までに実際に黒点観測を行い、「黒点が多いときは太陽がどんなとき？」「黒点が増えると地球の気温は下がるの？」など、自分なりの疑問をもって授業に臨んでいました。授業では、黒点の増減を示したグラフが提示され、先生から「今年2025年は太陽活動の極大期にあたるかもしれない」との説明がありました。その後、各班でタブレットを使いながら調べていくと、「オーロラ」「通信障害」「停電」「被曝」などのキーワードが次々と出てきました。特に「停電？」「病院とか大変だね」といった声があがり、身近な生活と太陽の活動が結びついていく様子が見られました。発表の時間になると、生徒たちは互いの発表にしっかり顔を向け、真剣に聞き合っていました。ふりかえりには、「悪い影響ばかりだと思っていたけど、メリットを話していた班もあり、自分たちにはその視点がなかった。なるほどと思った」「どの班も違う意見があって、聞いていて面白かった」「他の班の発表を聞くのが楽しかった」といった感想が記されていました。自分たちで調べたことを共有し、他の班の発見に新たな気づきを得る——まさに「対話を通して学びを深める」姿があちこちで見られました。



10月上旬、学校の渡り廊下には全校生徒が作成した短歌や俳句の短冊が色とりどりに飾られていました。立ち止まって互いの作品を読み合う生徒たちの姿からは、学年を超えた一体感と温かさが感じられました。こうした日常の中にも、「協働の学び～対話を基盤とした授業づくり～」を大切にしてきた筑摩野中の姿勢が表れています。

現在、筑摩野中学校では教科内で授業を見合う月間を行っています。今後も生徒の学び合う姿を大切にしながら、協働の学びを深めていく効果的な「問い」のあり方を研究していきます。



＊ 波田小学校 やってみたいこと、挑戦してみたいことが実現できる学校に！



県の学びの改革リーディング校として、3年目を迎える今年は、職員間の対話をさらに充実させ、職員同士が「学び合おう・つながろう・語り合おう・全員が」を合言葉に、学校づくりを行ってきました。波田小の先生たちが職員の「学び合い、語り合う」場を大切に、取組んできた歩みを紹介します。

「つながろう 語り合おう」～ HATA トーク ～

職員数も多く、校舎改築により校舎間の移動距離が長いので、まずは職員同士が「つながり、語り合う」場をつくりたいと願い、5月から職員連絡会の後に、10分間程度の HATA トークを新設しました。語り合いのグループは、学年を超えてさまざまな先生方と関わられるようにと、ランダムに編成しました。最初は、「自分がお勧めしたい給食のメニュー」など話しやすいお題からはじめました。半年たった現在は、さらに先生方の余白時間を大切にしようと、職員会議の見直しを図り、その中に10分程度位置付けています。お題も「今の子どもの姿」から語り合えるように工夫しています。10月29日(水)には、全国学力・学習状況調査結果を受け、「自分たちの授業づくりにつなげよう」と語り合う場を計画しています。

学校教育目標：まつかぜ

「ま」学び合おう 「つ」つながろう

「か」語り合おう 「ぜ」全員が

「学び合おう」～やってみたいこと・挑戦してみたいことを生かした職員研修～

今年度は、「身近な先生方のやりたいこと・得意なことから学び合おう」と職員研修を定期的に企画・実施しています。6月初旬には、「Canva の得意な先生から学ぼう」と自主研修会を実施しました。10数名の先生方が参加し、クラスのホームページの作成の仕方や Canva の使い方について学び合いました。6月中旬には、「職員同士のつながり」



を深め、「教材研究の機会に」と、「第1回職員モルック大会」を開催しました。当日は、20名以上の職員が参加し、歓声を上げながら親睦を深めました。校舎改築中で遊び場が少ない中、休み時間にモルックができるのではないかとこの声も聞かれました。



7月中旬には、「身近な先生方から学ぶ機会を通し、学級経営や授業づくりに活かそう」と、4人の先生たちが講師になり、4講座の研修会を開催しました。先生たちは、4講座の中から自分が興味ある講座を、前半・後半 30分ずつ2講座を選択受講しました(実施校の取組状況

[紹介 - 松本市ホームページ](#) 7月22日更新)。これからも「互いの専門性や情熱に触れ、自らも学び手となって新たな可能性に挑戦する」機会となることをめざし、職員で学び合っていきます。

「学び合おう・語り合おう・全員が」～全員でアウトプットデーにチャレンジ！～

8月29日に「一学期の総合的な学習の時間等の取組み状況の中間発表会をしよう」と職員アウトプットデーを初めて実施しました。1学年～6学年と特別支援学級を2会場に分け、1回に8～9ブースを設置し、計4回行いました。先生たちは、自分の興味があるブースに行き、実践を聴き、質問や感想をフィードバックし合い、最後に感想を付箋に記し発表者に渡しました。



その後の「アウトプットデーを終えて」のアンケートでは、「一学期を振り返り、今後の実践のヒントを得ることができたか」という質問に対して、「とてもそう思う63.6%」「だいたいそう思う36.4%」という回答が得られ、充実した研修になったことがうかがわれました。

- ・自分の実践を振り返るとともに、他学年の先生方の取り組みや考えが知れて大変勉強になりました。今後このような機会が定期的にあればいいなと感じました。

- ・自分の実践を振り返って、本当に子どもたちの願いから授業がつながっているのかを見直すことができました。先生方にアドバイスをいただいて、新たな考えを得て、今後の見通しをもつことができました…

そして現在、先生方がアウトプットデーでの助言を受け、チャレンジしたいことの実践が行われています。研究部会や先生方から、公開授業の案内が出され、参観したり対話したりして授業づくりを深めています。